

闇夜

20230518

エリー



—

目次

はじめり	1
------------	---

はじまり

若い魔女ニニーが暗い原生林を歩いている。
見上げれば闇夜が重い。
色とりどりの黒に囲まれ、視覚はあてにならない。
感覚を研ぎ澄ませると微かな煙の匂いを感じる。
風の出所を探って歩く。
この森で火を焚いていたならとても危険。盗賊を呼び寄せる。
一歩ずつ体の動きを確認して慎重に進む。
道はだんだん下っていく。
どうやら匂いは縦穴の洞窟から流れてくる。
耳を澄ませてみる。
カッ、カッ、カン。
剣で打ち合うような金属音がする。
ニニーは、握りこぶしほどの石を拾い集め、ガンガン穴に投げ入れる。
鎧を着た兵士なら無傷。
軽装の盗賊には致命傷。
兵士の援護になるはず。
不意に体が宙に浮く。
腰のナイフを土壁に刺して、落下速度を遅らせる。
ズズズズ。
怪我することなく底に足が着く。
どうやら背中を押されて、穴に落とされたらしい。
上も下も危険。
下弦の月が出るのは22時ころ。まだ1時間以上ある。
状況が分からないなかで動くのはまずい。壁にもたれて楽な姿勢をとる。
「アハハ。肝の座った野郎だな。どこの所属だ。俺は辺境警備。お前のお陰で助かった」
声に聞き覚えがある。
「アーモンド？」
「その声はニニー？」
ポッとろうそくが灯る。
赤い小さな光に困惑する友の瞳が照らし出された。
「バカやろう。何で降りてきた」

「火を消せ。降りてない。落とされた。上は危険。奥に進もう」

「ほうきはどうした？」

「歩くのに邪魔だから置いてきた」

倒れてる盗賊の頭を探る。

長い髪をしている。ナイフで切り、手足を縛る。

「これで万が一生きていても追ってこれない」

「容赦ないな」

「ナイフで首を切るより人道的」

話を打ち切りニニーが歩き出す。

「待てよ。俺が先頭を歩く」

「いや、後ろから狙われたらロープのわたしは死ぬ。しんがり頼む」

有無を言わせぬ圧力でニニーが押し切る。

そして奥へ。奥へ。

闇夜20230518

著 ELYE

制作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
